

地域振興助成

2022 年度採択事業 活動紹介

アートによる地域振興助成

1. 葦の芸術原野祭

葦の芸術原野祭実行委員会

代表者名：川村 喜一

葦の芸術原野祭実行委会は知床に移住した現代美術作家や地域住民、当地で継続的な創作・研究活動を行う多領域の表現者からなり、地域文化の再発見と新しい価値の創出を目的とした「葦の芸術原野祭」を2021年8月に初開催。芸術祭の開催そのものを文化振興の創造的行為と捉え、アーティストと地元協力者が垣根を越えて一体的な企画運営を行うことで、真に内発的な地域芸術祭の継続を目指している。

WEB：<https://ashigei-art-fes.studio.site/>



2. 白老文化芸術共創 - ROOTS & ARTS SHIRAOI - 2022

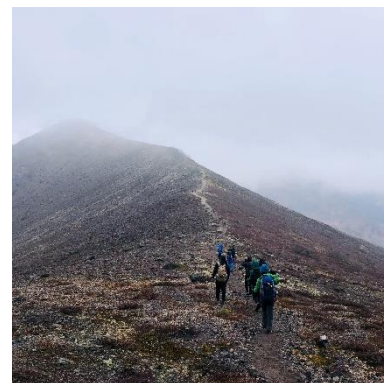
白老文化観光推進実行委員会

代表者名：熊谷 威二

白老の土地・周辺地域の風土や歴史軸、人々の暮らし・営み、伝承といった多様な文化資源〔=ROOTS〕を、フィールドリサーチや住民とのコミュニケーションを通して、その再発見・再評価・再構築の行為の中から新たな芸術表現を探求し発表する

〔=ARTS〕プロジェクト。多様な第三者・来訪者が白老を巡り、土地の記憶や息づく文化を体感するアートツーリズムを目指す。

WEB：<https://www.shi-ra-oi.jp/>



3. 北奥の F"UNKASAI (読み：ホクオウノブンカサイ)

株式会社風景屋

代表者名：小林 徹平

風景屋は「素敵な風景を見つけること／つくること／育てること／仕組みづくること」を理念に、その地域がその地域らしく続いていくために必要なことを追求し、計画設計、イベント・勉強会等各種活動の企画運営を行なっている。十和田湖畔休屋地区において地域課題となっている“廃屋商店”を改修し、中長期滞在専用のゲストハウス兼コワーキングスペース「yamaju」を2019年6月に開業。2022年度に第1回「北奥の F"UNKASAI」を開催予定。

WEB：<https://fuukeiya.jp/>



4. River to River 川のほとりのアートフェス 2022

ya-gins

代表者名：石井 隆行

群馬県前橋市の中心市街地に流れる広瀬川と馬場川。私たちにうるおいと豊かな景観とともに、多くのインスピレーションをもたらしてくれる。2022年に第2回を開催する「River to River 川のほとりのアートフェスティバル」では、2つの川の流域にあるアートスペースや歴史的建造物などの拠点で展覧会や関連イベントを行う。アーティストによる多様な作品を通して、川からもたらされるもの、つなぐものを可視化していく。

WEB：<http://ya-gins.net/>



5. クロスプレイ東松山

医療法人社団保順会

代表者名：辻 守史

医療法人社団保順会と一般社団法人ベンチの共同事業。埼玉県東松山市内に移転新築される高齢者福祉施設に宿泊・創作できる常設のアーティスト・イン・レジデンス機能を設置。アーティストによるワークショップや作品創作を中核としながら、地域の文化・福祉施設等でのアウトリーチや、リサーチを通じた住民との交流機会、作品発表を行う。また地域の様々な人や団体と連携した、有機的なネットワーク構築にも取り組む。

WEB：<http://tsuji-hojun-clinic.com/>



6. 原泉アートデイズ！2022

原泉アートプロジェクト

代表者名：羽鳥 祐子

静岡県掛川市北部に位置する中山間地、原泉地区を舞台に、アーティスト・イン・レジデンスを主軸としたアート活動を通して地域の魅力を再発掘し、地域レベルのサステナビリティの実現を目指すプロジェクトです。12～13組の国内外のアーティストが地域全体を使って滞在、作品制作、発表する展覧会「原泉アートデイズ！」を毎年開催。使われなくなった空き施設を活用し、創作活動のプロセスを支援する環境を整えている。

WEB：<https://haraizumiart.com>



7. 紀南アートウィーク 2022（仮称）

紀南アートウィーク実行委員会

代表者名：藪本 雄登

和歌山県紀南地域の歴史文化や風土を再発見・再整理し、その価値を紀南地域から全世界に発信することを目的に、2021年に芸術祭「紀南アートウィーク 2021」を開催。

2024年の芸術祭の開催に向け、2022年は紀南地域の特産品である「みかん」をテーマとしたプロジェクトを実施。地域でのリサーチを中心に、農業・食・哲学・文学・神話・経済などの様々な角度から、みかんの解像度を高める試みを行っていく。

WEB：<https://kinan-art.jp/>



8. 熊本地震で損壊した田中憲一作品を修復して御船地域の文化復興を牽引する事業

熊本地震 田中憲一の画を救う会

代表者名：渡邊 秀和

平成28年熊本地震で被災した田中憲一（1926-1994）の作品を救出・保存・修復し、地域の芸術文化資源を継承していくために、御船町住民を中心に結成。熊本県立美術館で地元出身美術家の調査をして来た研究者と熊本出身の絵画保存修復家が、震災直後からプロジェクトに加わり、公開での修復展や御船地域で育った美術家の学習会等を継続し、芸術文化を再発見し誇りとする地域振興を果たそうと活動している。



9. イミグレーション・ミュージアム・東京（通称：IMM）

特定非営利活動法人 音まち計画

代表者名：岡部 修二

美術家の岩井成昭が主宰する「イミグレーション・ミュージアム・東京」（2010年～現在）は、地域に居住する海外ルーツをもつ人びととの交流を通じて企画されるアートプロジェクト。地域に暮らす彼／彼女らの生活様式や文化背景を紹介するとともに、それらが日常の中で変容していく諸相を「適応」「保持」「融合」という3つのキーワードから探る。多文化社会を知り、考え、参画していくためのプラットフォームの形成を目指す。2022年度は従来の活動に加え、足立区内の小学校へのアウトリーチ事業を深める。

WEB：<https://aaa-senju.com/>



10. UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川

特定非営利活動法人クロスメディアしまだ

代表者名：大石 歩真

2012年法人格取得。「地域情報支援」として地域情報誌の発行（毎月5万部）、「社会教育支援」としてこどもわくワークの開催、ICT、IoTによる人材育成支援、「中間支援」として市民活動センターの運営、コワーキングスペースの運営、「アートによる地域づくり」としてUNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川の運営を行う。多様な価値を認め合うクリエイティブな地域社会の実現を目指し、各事業を遂行している。

WEB：<https://2022.unmanned.jp/>



11. MAT, Nagoya 2022 地域交流プログラム

Minatomachi Art Table, Nagoya

代表者名：吉田 有里

Minatomachi Art Table, Nagoya[MAT, Nagoya]は、2015年より名古屋港エリアを舞台にまちづくり団体と協働するアートプログラム。現代美術の展覧会、滞在制作を行う「スタジオプロジェクト」、ワークショップなど地域との交流を目的とした様々な企画を実施しています。美術、音楽、デザイン、建築などの分野を横断し、人とまちが関わり、作品が生まれる場づくりを実践している。

WEB：<http://www.mat-nagoya.jp>



12. 高見島プロジェクト 2022

高見島プロジェクト

代表者名：内田 晴之

京都精華大学有志が組織する高見島プロジェクトを中心に、2013年より継続的に高見島を舞台に瀬戸内国際芸術祭に参加している。時代の流れに翻弄される地域にあって、その歴史、文化に敬意を払った作品展開を心がけている。誰も住まなくなった集落、そこに残る塩飽大工が作ったであろう古民家を修理、改修して作品展示の場所とし、高見島に残る古く美しい景観を守って行きたい。

WEB：<https://www.takamijima-museum.com>

